心が響き合う町を合言葉に観光振興

97

知覧（ちらん）

（鹿児島県知覧町）

注目　ポイント　！

○　「古い町並みに心やすらぐ町」「平和の尊さを語りつぐ町」を基本コンセプトに町並みの維持、平和情報の発信基地としての役割を推進。

観光入込客数が約51万人から約100万人に！
（昭和61年度）　（平成17年度）

武家屋敷通り

◇◇ コラム ◇◇

知覧町は、薩摩藩の外城制度により「麓」と呼ばれる武家屋敷群が残る歴史の息吹を感じる町である。また、昭和20年には、知覧特攻基地より439名の特攻隊員が出撃した歴史を持つ。

悠久の歴史を越えてさらに歴史の息吹を感じる武家屋敷群と時代で風化させてはいけない平和への熱き思いを語りつぐ町である。

町では、町民一体となり昭和50年代から歴史が残してくれた大切な物を守りながら、新しい取り組み（清流溝や灯籠などの町並み整備、農業体験型の観光等）も取り入れた観光振興も行っている。

これまでの経緯

昭和３０年（１９５５）	特攻平和観音堂を建立する。
昭和５０年（１９７５）	特攻銅像、特攻遺館を建立する。
昭和５５年（１９８０）～	
昭和５９年（１９８４）	伝統的建造物保存地区条例を制定し知覧独自の町並みを整備する。
昭和５６年（１９８１）	七庭園が国の「名勝」指定、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定される。
昭和６１年（１９８６）	特攻平和会館を新築する。
平成　２年（１９９０）	「平和へのメッセージfrom知覧」として中学生から一般までのスピーチコンテストを開始する。
平成　５年（１９９３）	町の歴史資料館であるミュージアム知覧が開設される。
平成　８年（１９９６）	商工会が主体となって青森のねぷた祭りを再現する「ねぷた祭in知覧」を開始する。
平成１３年（２００１）	特攻隊員の安らぎの場であった富屋食堂を復元する。
	映画「ホタル」にちなんでホタル館と命名する。
平成１８年（２００６）	武家屋敷群と麓公園を結ぶ遊歩路が完成する。

主な取り組み

武家屋敷群を活かした町並み整備

武家屋敷通りで景観の障害となっていた電柱を移転、土色の舗装など町並みを活かした街路整備を実施。幹線道路でも清流溝や石灯籠の設置等、知覧町独自の町並みを整備。

また、町が窓口となり、町を訪れる人へボランティア（現在6名登録）による観光ガイドを提供。

武家屋敷のガイド

清流溝のある幹線道路

あした、いのち、かがやけ

勇士の像

スピーチコンテスト

特攻平和会館

母の像

「必ず死ぬ」特攻隊員を見送る時は、筆舌に尽くしがたい気持ちだったという。その事実を正しく語り継ぐことが、基地のあった町の責務。そのため知覧町は、記録や資料を保存、展示し、中・高生、一般のスピーチコンテストを通しての平和へのメッセージ等により、「平和を語りつぐ町」というイメージを発信。

緑の中で育む農業

「知覧茶」は全国茶品評会において、何度も最高賞を獲得して銘柄を確立。近年では、体験型の観光農業も実施しており、お茶摘みや芋掘り等、旅行エージェントを通じて、学校等に体験型観光農業の情報を発信。

茶摘み体験

ねぷた祭in知覧

青森県から知覧へ青少年交流した高校生が「ねぷた祭り」の話をしたのがきっかけで、町、商工会主導で平成8年より実施。

現在、青森県平川市（旧平賀町）の指導のもと知覧町で作成した5基の「ねぷた」が運行。

ねぷたまつり

問い合わせ先

○知覧町観光課
Tel：0993－83－2511　http://www.town.chiran.kagoshima.jp